

(報道用資料)

発信元／株式会社 谷沢製作所 担当：宮崎
東京都中央区新富 2-8-1
TEL：03-3552-5581

プレスリリース

谷沢製作所グループの開発部員 3 名が、「平成 31 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰」の「科学技術賞(技術部門)」を受賞 衝撃吸収性と通気性を向上させたヘルメット内装「エアライト」の開発で

産業用ヘルメットメーカー、㈱谷沢製作所（東京都中央区新富 2-8-1、谷澤和彦社長、03・3552・5581）グループの開発部員 3 名が、「平成 31 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰」において、「科学技術賞（技術部門）」を受賞することになりました。

受賞対象は、衝撃吸収性と通気性を向上させたヘルメット内装「エアライト」の開発です。

受賞者は、㈱谷沢製作所の開発・製造部門を担う 100%子会社、㈱常磐谷沢製作所（東京都中央区新富 2-8-1、谷澤和彦社長）に所属する 3 名です。

ちえ そんぐん
崔 成根（茨城工場 工場長）

すずきあきよし
鈴木昭吉（茨城工場 品質管理部長）

うけがわたけし
請川武史（茨城工場 開発部 開発課主任）

授賞式は 4 月 17 日（水）に文部科学省で行われます。

（従来のヘルメットの欠点）

労働安全衛生法に基づく「保護帽の規格」には、産業用ヘルメットとして「飛来・落下物用」と「墜落時保護用」の二通りが定められています。墜落時保護用ヘルメットを構成する衝撃吸収ライナーとして、従来は発泡スチロールなど、合成樹脂の発泡材が用いられてきました。発泡材はたいへん優れた衝撃吸収材ですが、狭いヘルメット内部を占有するために、内部に流入する風の流れを阻害します。さらに、その高い断熱性ゆえに、頭部から生じる熱を内部に滞留させます。

このため、特に汗をかき易い夏場は、ヘルメット内部が常に蒸れた高温状態となるため、装着感が不快だけでなく、熱中症の危険も増します。また、集中力を欠いて、不安全行為につながる場合もあります。

（当社開発品「エアライト」の特徴）

これに対して、ヘルメット内装「エアライト」は、合成樹脂製の六角柱の衝撃吸収体「ブロックライナー」を内装体と一体成形して衝撃吸収ライナーとしたもので、発泡材を用いない墜落時保護用ヘルメットとしては、我が国で初めて「保護帽の規格」に基づく検定を取得しました。

六角柱の衝撃吸収体を帽体内部に適正配置することにより、ヘルメット全周囲での衝撃吸収性能は、従来と同等かそれ以上です。

また、発泡材を用いた従来の同型ヘルメットに比べて、ヘルメット内部の空間体積は約 1.5 倍増えました（ST#161 型での比較）ので、風が吹く場所で使用したり、ゆっくり歩行したりすると、顔面に当たった空気が衝撃吸収ライナーに邪魔されることなくヘルメット内部を流れ、内部が蒸れにくくなりました。

さらに、汗や泥で汚れたヘルメットを洗浄する場合、従来は発泡材表面の汚れが取れにくだけでなく、発泡材裏側の水滴がなかなか乾燥しないため、いやな臭いが残りがちでした。「エアライト」付きのヘルメットはそもそも発泡材の部品がないだけでなく、内部が乾きやすいため、臭いが残りにくくなりました。

（「エアライト」の現状）

「エアライト」を装着したヘルメットは、2014 年 7 月の発売以来、「産業用ヘルメットの常識を超えるヘルメット」として、ユーザーの皆様から大好評をいただいています。発売当初、3 型式でスタートしましたが、現在は 30 型式を販売し、累計販売個数も 270 万個を超えました。

今回の栄えある受賞は、「エアライト」の新規性と独自性を評価いただくとともに、ユーザーからの幅広いご支持のたまものと深く感謝しております。



衝撃吸収性と通気性を向上させたヘルメット内装「エアライト」(左)と六角柱の衝撃吸収体「ブロックライナー」の拡大写真(右)



ヘルメット内装「エアライト」を装着したヘルメット ST#161-JZ 型

(参考)

文部科学省のプレスリリース

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/04/1415044.htm

■ お問い合わせ先:株式会社 谷沢製作所 〒104-0041 東京都中央区新富 2-8-1
<http://www.tanizawa.co.jp/> TEL:03-3552-5581 営業部 広報担当/宮崎まで